

# 写真で振り返る

## 日出の風景と辻間楽



辻間楽は南北朝時代から継承されている八津島神社の伝統芸能です。ここでは辻間楽の舞台である八津島神社について見ていきたいと思います。

### 1 八津島神社の創建

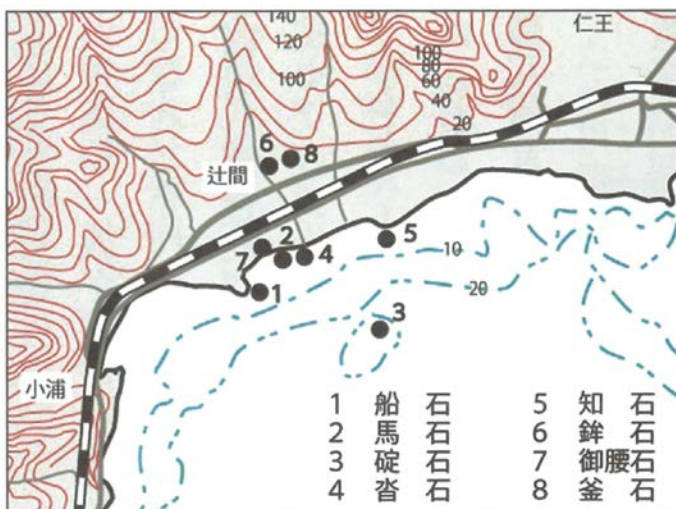
八津島神社は豊岡地区の宮川に鎮座しており、その創建は天平 6(734) 年とされています。

八津島神社の歴史に関わる史料としては、「神社仏閣萬旧由来記（萬旧記）」（城内文書（大分県立先哲史料館寄託））と「津島村図跡考」に収録している「影向山八石宮八津島大明神縁記」があります。それらによれば、天平 6 年 9 月 8 日に空より八つの霊石が降り、地元の領主である津島高春がそれらを「影向山八石宮八津島大明神」として祀ったとあります。

### 2 祭神となった八つの霊石

『日出町誌』本編や『ふるさと日出の歴史』には、祭神となった八つの霊石の場所を記した地図が掲載されています。天平 6 年に空から降った霊石はそれぞれ「船石」、「馬石」、「碓石」、「沓石」、「知石」、「鋒石」、「御腰石」、「釜石」と名付けられ、「八神影向石」と総称されました。

「萬旧記」などによれば、八つの霊石は日本神話に登場する神々と結び付けられたことが記されています。



八つの霊石の所在地  
(『ふるさと日出の歴史』より)

## COLUMN 第1話 - コラム -

### 八つの霊石を祀る八津島神社

### 3 大友氏の崇敬をうけた八津島神社

戦国時代には津島氏の後裔である辻間氏が大友氏に従っており、別府湾を守護するため辻間水軍を率いていたとされています。

その縁もあり、八津島神社は大友家から崇敬され、様々な品物が寄進されたといわれています。参道には大友宗麟から寄進されたと伝わる石鳥居が現存しており、八津島神社と大友家とのつながりをうかがうことができます。



宮川の地に鎮座する八津島神社



大友宗麟が寄進したと伝わる石鳥居